

協働事業評価に係る意見一覧【庁内委員会各委員】

資料 3

| | |
|-------|----------------------|
| 実施年度 | 令和 5 年度 |
| 事業の名称 | こども対話カフェ(こども対象哲学カフェ) |
| 団体名 | 対話カフェつむぎ |
| 担当課名 | 教育相談室 |

【評価の内訳】

| 協働事業の評価 | 評価数 |
|---|-----|
| 当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。 | 6 |
| ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。 | 5 |
| 協働事業として、うまく機能しなかった。 | 0 |

【事業に関する意見】

| | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした事業ということで、学校や教育相談室の協力を得ることにより、協働事業として実施したことによる効果はあったものと感じた。 参加を促すことが難しい子どもに対し、全開催回で参加者があったことは評価できる。また、複数回参加した子どももいたことから、子どもの気持ちに寄り添えた内容であったことが想定できる。 <p>参加したい気持ちを持っていながら、まだ、足を踏み出せない子どももいると思うので、今後においては、さらに参加しやすい仕組みをつくってほしい。</p> |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 実施団体と担当部署で、当事業の目的を共有するとともに、お互いの取組みを理解し、それぞれの長所をいかして実施できたものと評価できる。 子どもたちに「対話の方法」を身に付けてもらうことで人権意識を育成し、「いじめ」や「不登校」といった問題を解決していこうと当事業を行った結果、お子さん側にも受け入れられる等有意義に実施できたと評価できる。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> テーマを変えて全5回の対話カフェとファシリテーター入門体験会が開催でき評価できる。 書類上で読み取ると、参加人数について、実質の対象がこども4、5名だったと感じる。参加者が話しやすい環境からすると適切に思うが、15名(おとなも含めてだと思いが)までの定員からすると少ない気がするので、もう少し多くの人に参加してもらえるよう工夫が必要だと思われます。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 主旨や目的に沿ったものとして運営され、効果が表れている。 効果と比して、財政的、人的な負担は適切である。 公平性の観点から偏った市民サービスになっていない。 引き続き、同じような形態で運営していくことが効果的・効率的なものと判断いたしますが価値観の多様化、市民と行政との関わり方が変わりつつあることなどから、「常により効果的なものに改革」を実行していただくようお願いいたします。 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 団体と担当部署との役割分担ができていたように感じます。団体の意欲的な事業推進が感じられました。 難しいテーマでしたが、不登校という非常にナーバスな内容に向き合い、意欲的な団体であり、好感が持てました。来年度も引き続き実施していただき、一人でも多くの子どもたちが良い方向に行くといいかなと思っています。 |

| | |
|----|---|
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・対話の場の創出、対話の方法を身に着けさせることについては、実施団体が役割を担い、学校や保護者への案内については、担当部署が主体となって行われたことが伺える。 ・全体的な感想ですが、協働で行う事業としては、不登校やいじめ対策として必要な事業であると思います。ただ気になる部分としては、参加したが継続できない、また、そもそも参加できない子どもたちを、参加させられるようにするには、どうすればよいのか考えていく必要があると思います。 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・団体、担当部署がそれぞれの役割を果たすことができていたと思います。 ・「哲学」というとハードルが高いようですが、参加した人たちはどうだったのでしょうか。児童会や生徒会の役員をやっているような子どもたちが参加していたのでは、とってしまします。 <p>令和6年度はもっと大勢の参加を期待しています。</p> |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告等から、ほぼ適切な協働事業として評価できると判断します。 ・実施した事業内容から、協働事業として必要なものと改めて認識しました。一方で、参加者が伸びていない印象を強く持ちました。この事業を通して創出された「対話の場」をしっかりと周知して活用していただきたいと思います。 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業として、団体と担当部署がそれぞれの役割をしっかりと果たし、事業目的を達成したものと考えます。 ・子どもたちの抱えるなやみや問題は大変根深いものと思います。そのことを踏まえたうえで、今回の事業は人権教育のひとつとして、今後の事業展開の参考になったと考えます。 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・対話カフェは子どもたちが安心して話すことや聴くことのできる場となり、こどもたちの支えとなる協働事業として評価できる。 ・子どもたちが安心して話せる場を提供し、より多くの子供たちの支えとなるためにも継続して続けてほしい。 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回参加者があったことから、子どもたちが「対話」手法について楽しみながら学び、安心して自分の考えを言うことのできる場となっていることが伺えます。年間5回+研修1回という多くの開催を、担当課と団体とが熱意を持ち、連携をとりながら互いの役割のもと同じ目標を共有し、事業を進めていたことが協働事業として評価されます。取り扱う内容からどうしても参加者数に苦戦をしていますが、周知方法や開催場所の検討など、工夫をしていただき、多くの子ども達に参加をいただけるよう期待しております。 |